

支援センター名	龍郷町体験活動ボランティア活動支援センター
所在地	〒894-0192 鹿児島県大島郡龍郷町浦110
連絡先	Tel 0997-62-3111 Fax 0997-62-2074

事業の概要とポイント

町内7小学校区の、社会教育委員、青少年育成推進員、小中学校の奉仕・体験活動推進教職員が7つのプロジェクトチームを編成し、各校区の自然・文化・人材などの特性を生かした体験活動・ボランティア活動を展開している。その事前のプログラム検討会にコーディネーターも参加し、地域全体を動かす活動を推進している。

関係した学校・団体等の名称

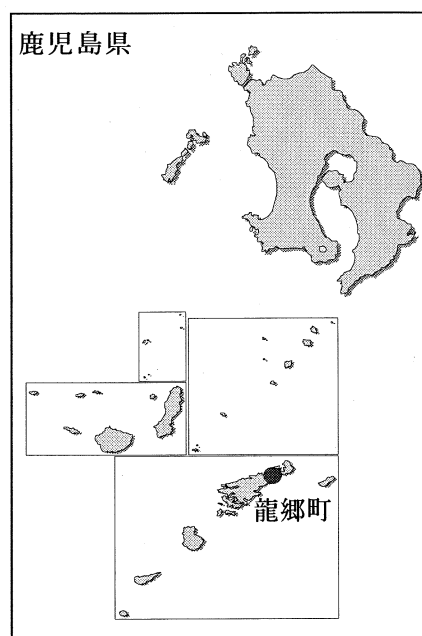
龍瀬小学校、赤徳小学校、龍郷小学校、戸口小学校、大勝小学校、円小学校、秋名小学校、龍南中学校、龍北中学校、赤徳中学校、大島養護学校

龍郷町社会教育委員の会議 町PTA連絡協議会 町子ども会育成連絡協議会 町地域女性団体連絡協議会 町青少年健全育成町民会議 町区長連絡協議会 町連合青年団 町社会福祉協議会

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 龍郷町 6,193人

本町は、鹿児島市から南西へ約380kmに位置し、海洋亜熱帯性気候で素晴らしい自然景観と奄美固有の動植物に恵まれ、歴史・文化としては西郷隆盛の流謫地や秋名アラセツ行事（国指定重要無形文化財）、長い伝統を誇る大島紬など地域文化を有している。少子高齢化が進む中、総体人口は年々増加傾向（Iターン・Uターン）にある。その中で、本町の教育行政は「好学・敬愛・自尊」の教育風土を醸成するため、生涯学習体制の確立、コミュニティスクールの構築、家庭教育力の機能再生を積極的に推進している。



企画から活動までの経緯

- 5月15日 社会教育委員、青少年育成推進員、小中学校の奉仕・体験活動推進教職員、コーディネーターが参加する合同の企画会議を開催し、各校区に分かれて7つのプロジェクトチームを作り、活動の進め方について検討・確認を行った。
- 5月～3月 各校区のプロジェクトチームで、地域の特性を生かした活動プログラムの作成と協力者の確保、関係者との事前打ち合わせ等、コーディネーターを交えて行った。
- 8月24日 円小校区「ウォークラリー」を実施。(詳細後述)
- 9月27日 龍瀬小校区「古代漁法体験」を実施。(同上)
- 10月26日 戸口小校区「種下ろし」を実施。(同上)
- 1月24日 龍郷小校区「桜ウォーク・宝探し」を実施(同上)
- 2月8日 大勝小校区「たんかん収穫体験」を実施(同上)
- 2月29日 赤徳小校区「レクリエーション会in大島養護学校」を実施(同上)
- 3月13日 秋名小校区「黒糖づくり体験」(雨天中止)

事例の展開内容

①円小校区「ウォークラリー」

1集落1学校という特性を生かし、島の自然・文化・生活などを体験できるポイントを設けてクイズを解きながら集落内を歩く活動。ポイントごとに集落内のお年寄りや青年団員が配置され、八月踊りを習ったり、昔の遊びを体験したり、ジョウヒ餅の作り方を学んだりできる活動。コーディネーターは参加者募集チラシの作成、バスの手配、当日の安全管理などに携わった。集落内放送で全体に協力を呼びかけた結果、地域全体で取り組んだ体験活動プログラムとなり、他の校区のプログラムの手本となるよう活動が展開された。小学校教職員の事前の丁寧な打ち合わせと関係者への協力依頼がこの活動の最大の成果であった。町内小中学生とその親30名、青年団員20名参加。



②龍瀬小校区「古代漁法体験」

校区内の海岸で、平家の落ち武者伝説にまつわる平家漁法を学び、体験する活動。校区内でその漁法に詳しいお年寄りの説明を受けて、石垣を積み、潮の干満を利用して石垣内に閉じ込められた魚を獲ることを学んだ。その後、海岸で貝採りを行った。この活動は親子での参加者が多かった。

また、養護学校の児童・生徒も20人ほど参加し、その活動支援に10名の高校生ボランティアも参加。その他町内小中学生とその保護者が70名。事前の海岸点検(危険箇所のチェック等)は、龍瀬小学校教職員と同PTA会員が実施。地元の海岸の歴史と古人の知恵に学ぶと同時に、親子で楽しめる活動機会が提供できた。総参加者は約120名。参加者の声も好評だった。



③戸口小校区「種下ろし」

島の伝統行事「種下ろし」は、どの集落でも豊年を祝って行われる。この戸口校区の特徴は、他の集落では今は見られなくなった「子どもだけの八月踊り」と言うことである。それを体験しようという企画で、集落の子どもたちに町内から参加した子どもたちが加わった約80名の子どもたちの集団が「八月踊り」を舞ったり、島唄を歌ったりしながら、集落内を回った。艶やかな衣装に身をまとった子どもたちの踊りに集落内の大人の声援も大きかった。その後、同集落内で非常に珍しいオオゴマダラ（蝶）を飼っている有志の方に、蝶園を開放してもらい、金色のさなぎや食草などの観察を行った。交通整理や子どもたちの移動については、青年団員の協力ももらった。コーディネーターは事前の打ち合わせ会に参加し、時間調整・協力者確保などについて話しあった。



④龍郷小校区「桜ウォーク・宝探し」

町民約250人が参加する毎年恒例のウォーキング大会に参加した子どもたちが、ゴール地点に着いてから、宝探しを行った。ゴール地点の「奄美自然観察の森」では、施設指導員から奄美の自然の豊かさと貴重な動植物にまつわる話を聞いた。宝物は、プロジェクトチームがあらかじめ隠しておいた。大人も童心に戻って楽しめるものとなった。

コーディネーターは前日にテントを設置したり、道路安全チェックなどを行ったりした。5月の企画会議で出された、「無理に新しい活動プログラムを作る発想だけでなく、今ある行事を生かした体験活動ができないだろうか」という課題に対する1つの解答例となる活動となった。



⑤大勝小校区「タンカン収穫体験」

奄美の名産たんかんの収穫体験を農園を借りて実施。雨天の中、約50名の子どもたちが参加。農園主から収穫時の注意があった後、実際にハサミを持って収穫。その後、1本の木になるタンカンの数や重さを問題にしたクイズなどに挑戦した。この活動で、プロジェクトチームが苦勞した点は体験できる農園を提供してくれる農園主を探すことだった。子どもたちが多数農園に入ると、農地が荒れ、切り方がまずければ後の枝処理が大変だからである。幸い有志の方が農園を提供してくれたので実施することができた。島の名産でありながら、実際に農園に入り、はさみを使って収穫したのは、今回が初めてという子どもがほとんどであったので、体験活動の大切さを痛感する活動となった。



⑥赤徳小校区「レクリエーション会in大島養護学校」

大島養護学校と連携して行った活動。学校教育の中で、交流活動が行われているが、日曜日に養護学校内で活動を行うのは初めての試み。最初に養護学校の児童・生徒約60名と町内小学校から参加した児童約40名が一堂に集まり、ジャズ演奏を楽しんだ。その後、ニュース

ポーツ、道具遊び、カラオケ・紙芝居の3グループに分かれて交流した。青年団ボランティアも10名参加。赤徳校区は他にも福祉施設が多く福祉の里となっているので、その校区の特性を生かした活動がさらに展開されることが期待できる。



⑦秋名小校区「黒糖づくり体験」

今回は雨天中止となったが、前年度も実施した活動である。奄美特産の黒糖作りは、現在ほとんどが機械化され、大量生産されている。しかし、本町には、昔ながらに家族総出で昔ながらの製法を守り、現在も取り組んでいる「さたやどり（黒糖小屋）」が一箇所だけ残っている。その全面的な協力をもらって「サトウキビ刈り」から「馬を使つての汁の絞り」、「煮詰めて砂糖にする」までの工程を体験することで、奄美の文化と先人の知恵を学習する活動である。



企画・活動する上でのポイント

①地域を動かす企画

プロジェクトチームが準備から後片付けまでの全てを行うのではなく、その校区の人材をできるだけ活用し、企画の段階から話し合いに参加してもらい、いろいろなアイデアをもらっていく。当日の活動も大切であるが、その事前準備の段階で、これまで埋もれていた人材が見つかったり、その新しい人材が別の人材を連れてきたりして、人の輪が広がり、地域が動かされるような企画を目指している。

②地域を見直す企画

各集落の豊かな自然や文化はまだ十分に生かされていない。この活動の中に必ず地域を生かすプログラムを入れ込み、子どもたちが、地域の良さを改めて感じるようにしている。地元に住む住民は案外その良さを当たり前のこととしている部分があるので、そのためにも地域の人材はもちろんのこと、学校教職員の協力・支援が必要である。

評価

成果

- ①地域の教育力の見直しと活性化を図ることができた。
- ②活動を進める中で人的ネットワークが強化され、広がりつつある。
- ③校区内の教育資源を見直そうとする姿勢が各団体に見られるようになった。
- ④地域の子どもは地域で育てようとする意識・雰囲気醸成されつつある。
- ⑤地域の良さを生かす活動を推進することできた。

課題

- ①他の団体活動（子ども会・各種少年団活動等）や町・集落行事との調整
- ②各校区の実行委員会の組織化と機能化